

## 政治学研究科

## I 2018年度 大学評価委員会の評価結果への対応

## 【2018年度大学評価結果総評】(参考)

政治学研究科の教育方法の一つとして、「政治学研究科における修士学位請求の審査日程およびプロセスについて」と題したパンフレットが作成され年間計画書が配布されていることは大学院生が年間のプロセスを理解するための取り組みとして評価される。また、年2回の論文構想発表会が設けられていることは、質の高い研究指導が展開されていることを示しており、研究科の努力が伺える。政治学研究科の当面の課題であった質保証体制については、2017年度に専攻会議・研究科教授会とは独立した質保証委員会を設置されたことは評価できる。定員充足に関しては、国際政治学専攻の検討している定員数の削減も一つの方向であるが、同専攻が試みている留学生への対応策もまた一つの方向であり、期待通りの成果となることが期待される。一方、博士後期課程のコースワークについては、全学の方針通りに政治学研究科においても早期の設置が望まれる。

## 【2018年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

定員充足に関して、政治学専攻においては、2017年度および2018年度の収容定員に対する在籍学生比率がいずれも0.60(大学評価室「IRシステム データ集」より)なので、特に問題ないものと認識している。2017年度および2018年度の収容定員に対する在籍学生比率がそれぞれ0.26および0.32(同前)の国際政治学専攻においては、ホームページやパンフレットを用いた広報活動による国内外学生の応募意欲という努力が必ずしも奏功しなかったことを踏まえ、一つの方向として同専攻の定員を25名から10名に削減することを累次の研究科教授会で議論し、承認した(「2018年度政治学研究科会議・議事録」2018年10月15日および11月19日)。

博士後期課程に関しては、論文指導科目(修了所要単位:12単位)と選択必修科目(同:4単位)からなる授業科目を新設し、コースワークおよび授業科目の単位制を導入した。これらの科目の設置により、博士後期課程コースワークが整備され、リサーチワーク(研究論文作成)と相俟って、同課程のカリキュラムが充実することになる。

## II 自己点検・評価

## 1 教育課程・学習成果

## 【2019年5月時点の点検・評価】

## (1) 点検・評価項目における現状

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①修士課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。

S  A  B

## ※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。

政治学や国際政治学は必ずしも「積み上げ」型の学問ではないため、科目履修の順次性はそれほど大きな問題とはならない。むしろ修士課程においては、専門的な研究分野に限定されない、幅広い知識のなかから各種の知見を抽出することも重要である。

このような理解にたつて、教育課程の編成・実施方針も念頭に置きながら、政治学専攻および国際政治学専攻では、コースワークとして幅広い科目を提供しつつ、指導教員が大学院生の研究テーマを踏まえて、リサーチワークに役立つかと思われる履修科目についてキメ細かい助言を行っている。英語の実践的能力強化を目指している国際政治学専攻では、英語コースワーク科目(3分野で初級・上級科目を設置)を配置している。

リサーチワーク、すなわち研究論文の作成については、おもに指導教員のもとに、研究構想発表会、論文ドラフト発表会、進捗報告会における集団指導とディスカッションによって適切に行われている。大学院生たちも、この論文作成が大学院生活の根幹であることを十分に自覚している。

## 【2018年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

国際政治学専攻においてリサーチワークや専門科目の履修を強化するため、2017年度より、コースワークに占める英語科目の比重を見直し、英語科目に関する所要単位を16単位から12単位に削減し、大学院生が専門科目を履修するとともに、リサーチワークを強化する余地をひろげた。2018年度は、この新たな取り組みが積極的な成果をもたらすか否かを数年度にわたり見極める初年度であった。

## 【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

②博士後期課程において授業科目を単位化し、修了要件としていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<b>【根拠資料】</b> ※「はい」を選択した場合に単位化及び修了要件として設定されていることが確認できる資料を記入。 ・特になし	
③博士後期課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<b>※コースワーク、リサーチワークを組み合わせさせた教育課程の概要を記入。</b> 博士課程においては各自のリサーチワーク（研究論文作成）が中心となり、指導教員の個別指導等が最も重要な役割をはたす。そのため、指導教員による個別指導にもとづいた科目を設定し、そのほか必要に応じて研究分野に関わる教員の授業科目を履修するよう指導してきた。 博士課程のコースワークについては、在学者数が少ないという事情があるため、これまで体系化されてこなかった。しかし累次の研究科会議で、リサーチワークとバランスのとれた適切なコースワークの在り方について審議を重ねてきた。	
<b>【2018年度に改善された事項および新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 上述した審議の結果、以下のように論文指導科目（修了所要単位：12単位）と選択必修科目（同：4単位）からなる授業科目が新設され、コースワークおよび授業科目の単位制が導入された。	
論文指導科目	博士論文演習ⅠA (2単位 1年次に履修) 博士論文演習ⅠB (2単位 1年次に履修) 博士論文演習ⅡA (2単位 2年次に履修) 博士論文演習ⅡB (2単位 2年次に履修) 博士論文演習ⅢA (2単位 3年次に履修) 博士論文演習ⅢB (2単位 3年次に履修)
選択必修科目	政治学特別講義1 (2単位 1年次に履修) 政治学特別講義2 (2単位 1年次に履修) 国際政治特別講義1 (2単位 1年次に履修) 国際政治特別講義2 (2単位 1年次に履修)
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・2018年度第12回政治学研究科会議配布資料「政治学研究科政治学専攻博士後期課程コースワーク導入に伴うカリキュラム改訂及び Semester 制導入について」、および「2018年度政治学研究科会議・議事録」2018年12月3日、ならびに2019年度「大学院要項」157-159頁。	
④専門分野の高度化に対応した教育内容を提供していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<b>※学生に提供されている専門分野の高度化に対応した教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</b>	
<b>【修士】</b> 政治学、国際政治学両専攻ともに、時代の要請に応じた最先端の研究や調査に基づいた教育科目が開設されており、各専攻専門分野の高度化に相応した教育内容が提供されている。	
<b>【博士】</b> 時代の要請に応じた最先端の研究や調査に基づいた教育科目が開設されており、専門分野の高度化に相応した教育内容が提供されている。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
⑤大学院教育のグローバル化推進のための取り組みをしていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<b>※大学院教育のグローバル化推進のために行っている取り組みの概要を記入。</b>	
<b>【修士】</b> 政治学、国際政治学両専攻とも外国人入試制度を実施し、留学生の受け入れを積極的に進めてきている。また、国際政治学専攻では「グローバル政治経済特別セミナー」という科目を開設し、外国人研究者による最新の研究を踏まえた集中講義を開講することにより、大学院生がグローバルな水準の研究に触れる機会を提供している。	
<b>【博士】</b> 博士後期課程にコースワークと授業科目の単位制を導入するにあたり、高度かつ先進的水準にある国際政治学を履修できるようにするため、「国際政治特別講義1」および「国際政治特別講義2」を設けた。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国際政治学専攻「グローバル政治経済特別セミナー」開講実績。</li> <li>2018年度第12回政治学研究科会議配布資料「政治学研究科政治学専攻博士後期課程コースワーク導入に伴うカリキュラム改訂及び Semester 制導入について」、および「2018年度政治学研究科会議・議事録」2018年12月3日、ならびに2019年度「大学院要項」157-159頁。</li> </ul>	
1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※履修指導の体制および方法を記入。</p> <p><b>【修士】</b> 指導教員および学科の専任教員が大学院生の研究テーマや能力を見極めながら、キメ細かく科目履修の指導を行っている。各科目の担当教員は、履修者のなかに留学生と日本人学生が混在する場合には、日本語および英語の能力に留意しながら授業で精読する文献や授業速度を適切に調整し、履修指導を行っている。</p> <p><b>【博士】</b> 指導教員および学科の専任教員が大学院生の研究テーマや能力を見極めながら、キメ細かく科目履修の指導を行っている。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特になし</li> </ul>	
②研究科（専攻）として研究指導計画を書面で作成し、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p>※ここでいう「研究指導計画」とは、事務手続きのスケジュールやシラバス等の個別教員の指導計画を指すのではなく、研究科としての研究指導体制及び研究指導スケジュールをまとめたものを指します（学位取得までのロードマップの明示等）。また、「あらかじめ学生が知ることの状態」とは、HPや要項への掲載、ガイダンスでの配布等が考えられます。</p> <p><b>【修士】</b> 政治学専攻、国際政治学専攻ともに、「修士号学位請求の審査日程及びプロセスについて」と題する文書を新入生オリエンテーション時に院生に配布し、各専攻主任が詳細に説明している。また、同文書はオリエンテーション欠席者などのため事務窓口へ備え付けられ、さらに学生がいつでも参照できるよう大学院ホームページ上にも公開される予定である。そのうえで、個別教員から上記の文書に示された日程を念頭に置きながら研究活動を実施するよう指導している。</p> <p><b>【博士】</b> 「政治学専攻における修士号学位請求の審査日程とプロセス」と題する文書を作成し、個別教員から同文書に示された日程を念頭に置きながら研究活動を実施するよう指導している。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※研究指導計画が掲載された文書・冊子等の名称を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「政治学専攻における修士号学位請求の審査日程及びプロセスについて」、および「国際政治学専攻における修士号学位請求の審査日程及びプロセスについて」、ならびに「政治学専攻における博士号学位請求の審査日程とプロセスについて」</li> </ul>	
③研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p>※組織的な研究指導、学位論文指導の概要を記入。</p> <p><b>【修士】</b> 政治学、国際政治学両専攻とも、指導教員が個々の院生の能力や状況に応じた研究・学位論文執筆の計画を立てている。また、2回の論文構想発表会においては専任教員陣が院生に対し組織的かつ多面的な助言を行うなどして、研究指導にあたる機会も設けている。 1回目の論文構想発表会では、専任教員陣が多角的に院生各自の研究構想について論評している。2回目の論文構想発表会では、院生が用意した論文骨子を踏まえて、さらに掘り下げるべき点や欠落している点などを指摘して、論文の完成に向けた詳細なコメントをくわえている。また、修士課程1年生にも論文構想発表会への出席をもとめ、次年度に取り組むべき作業への具体的なイメージや論文執筆の要領を学べる機会を設け、全般的な指導に役立てている。 年に2度の論文構想発表会を開催することによって、研究活動のペースやスケジュールを院生に強く意識させるばかりでなく、論文の内容を多数の教員で論評することによって、その質を高める効果を期待しており、じっさいに中途脱落者は少なく、効果はあがっている。</p> <p><b>【博士】</b></p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

学位論文を提出する前に2回の論文構想発表を義務づけることにより、院生が独自の知見を新たに加えるといった最先端の研究水準に達し、また自立した研究者としての力量を身につけることができるよう、指導教員は個々の院生の能力や研究の進捗状況を見極めながら、研究・学位論文指導を行っている。

2度の論文構想発表会を開催することによって、研究活動のペースやスケジュールを院生に強く意識させるばかりでなく、論文の内容を多数の教員で論評することによって、その質を高める効果を期待している。

【**根拠資料**】※ない場合は「特になし」と記入。

・「政治学研究科ディプロマ・ポリシー（新版）」（2018年7月2日改定）、および前掲「政治学専攻における修士号学位請求の審査日程及びプロセスについて」、および「国際政治学専攻における修士号学位請求の審査日程及びプロセスについて」、ならびに「政治学専攻における博士号学位請求の審査日程とプロセスについて」

1.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。

S  A B

※成績評価と単位認定の確認体制及び方法を記入。

【**修士**】

各科目の成績評価と単位認定は各教員に任されているが、受講者の到達度いかんによってはB以下という比較的きびしい評価をする場合も当然にあり得る。また近年に導入されたA+評価によって特に到達度の高い院生を評価できるようになっており、成績評価は適切に行われている。

まんいち、成績評価と単位認定の適切性に異議が呈せられるような事態が生じた場合には、各専攻会議および研究科会議で審議される。

【**博士**】

各科目の成績評価と単位認定は各教員に任されているが、受講者の到達度いかんによってはB以下という比較的きびしい評価をする場合も当然にあり得る。また近年に導入されたA+評価によって特に到達度の高い院生を評価できるようになっており、成績評価は適切に行われている。

まんいち、成績評価と単位認定の適切性に異議が呈せられるような事態が生じた場合には、各専攻会議および研究科会議で審議される。

【**根拠資料**】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

②学位論文審査基準を明らかにし、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。

はい  いいえ

※学位論文審査基準の名称及び明示方法を記入。

【**修士**】

政治学専攻、国際政治学専攻ともに、「政治学研究科学位基準」と題する文書（その第二が「修士論文の審査基準」）を新入生オリエンテーション時に院生に配布し、各専攻主任が詳細に説明している。また、同文書はオリエンテーション欠席者などのため事務窓口に備え付けられ、さらに学生がつねに参照できるよう大学院ホームページ上にも公開される予定である。そのうえで、個別教員から上記の文書に示された日程を念頭に置きながら研究活動を実施するよう指導している。

両専攻とも、学位授与方針を念頭に置いて、指導教員による日常的な個別指導を徹底させるとともに、定期的に開催している論文構想発表会における指導によって論文審査基準を院生に周知せしめ、十分かつ具体的な理解が行きわたるよう適切に指導している。

【**博士**】

「政治学研究科学位基準」と題する文書（その第一が「博士論文の審査基準」）を作成し、個別教員から同文書に示された日程を念頭に置きながら研究活動を実施するよう指導している。

学位授与方針を念頭に置いて、指導教員による日常的な個別指導を徹底させるとともに、定期的に開催している論文構想発表会における指導によって論文審査基準を院生に周知せしめ、十分かつ具体的な理解が行きわたるよう適切に指導している。

【**根拠資料**】※学位論文審査基準にあたる文書の名称を記入。また、冊子等に掲載し公表している場合にはその名称を記入。

・「政治学研究科学位基準」（2012年2月20日研究科教授会確認）

③学位授与状況（学位授与者数・学位授与率・学位取得までの年限等）を把握していますか。

はい  いいえ

※箇条書きで記入※データの把握主体・把握方法、データの種類等を記入。

大学院事務課と連携して学位授与状況のデータを取得し、政治学研究科会議で報告を行って、教員陣が把握できるよう

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<p>にしている。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
④学位の水準を保つための取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組み概要を記入。</p> <p><b>【修士】</b> 学位の水準は、学位論文に関する厳格な審査体制とスケジュールの確保により、適切に保たれている。学位論文の審査には、全専任教員が加わり、学位論文の水準を担保している。</p> <p><b>【博士】</b> 学位の水準は、学位論文に関する厳格な審査体制とスケジュールの確保により、適切に保たれている。学位論文の審査には、主査1名、副査2名からなる小委員会での極めて専門性の高い審査を経て、最終的には全専任教員による審査投票を実施することで学位論文の水準を担保している。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
⑤学位授与に係る責任体制及び手続を明らかにし、適切な学位の授与が行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※責任体制及び手続等の概要を記入。ただし、博士については、学位規則のとおりに行われている場合には概要の記入は不要とし、「学位規則のとおり」と記入。</p> <p><b>【修士】</b> 政治学専攻では修士論文、国際政治学専攻では修士論文もしくはリサーチペーパーを、あらかじめ公表されている手続と日程にそって院生に提出させ、指導教員が副査、他の教員が主査となって審査を行っている。 学位請求論文もしくはリサーチペーパーの査読と口述試験の結果に基づいて、各専攻において全専任教員による審議を行って学位の授与を決定している。</p> <p><b>【博士】</b> 学位規則のとおり</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
⑥学生の就職・進学状況を研究科（専攻）単位で把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p>※データの把握主体・把握方法、データの種類等を記入。</p> <p>修士号取得者の進路については、修了時の調査によりほぼすべて把握している。しかし、外国人留学生については、修了時に未定、またはその後の照会に応じないという場合もある。 博士号取得者の進路については、就職がやや厳しい状況にはあるものの、教員が学位取得者と継続的に連絡を取り合うなどして就職状況の把握に努めている。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>特になし</p>	
1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p><b>【修士】</b> 政治学、国際政治学両専攻とも、学位授与方針で示している論文の審査基準（先行研究の批判的検討の十分さ、分析方法と論考の適切さ、主張されている知見の独創性）を満たすのに必要な専門知識の習得を、学習成果を測定する重要な指標として適切に設定している。</p> <p><b>【博士】</b> 学位授与方針で示している論文の審査基準（先行研究の批判的検討の十分さ、分析方法と論考の適切さ、主張されている知見の独創性）を満たすのに必要な専門知識の習得を、学習成果を測定する重要な指標として適切に設定している。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・前掲「政治学研究科学位基準」</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

②具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※取り組みの概要を記入。取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学習成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等。	
<b>【修士】</b> 個別授業で受講者が行う研究報告を通じて、個別の教員が学習成果を把握するよう努めている。これに加えて、2回にわたる学位論文構想発表会での研究発表は、学習成果を組織的に把握し、院生らの到達度を評価するうえで重要な役割をはたしている。	
<b>【博士】</b> 個別授業で受講者が行う研究報告を通じて、個別の教員が学習成果を把握するよう努めている。これに加えて、指導教授が指導担当する院生にリサーチワーク、すなわち論文作成の進捗状況を定期的に確認することで学習成果を把握するよう努めている。さらに、2回にわたる学位論文構想発表会での研究発表は、学習成果を組織的に把握し、院生らの到達度を評価するうえで重要な役割をはたしている。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
1.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	
①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程及びその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。	
<b>【修士】</b> 月2回のペースで政治学、国際政治学各専攻会議、ならびに政治学研究科会議を開催し、教育課程およびその内容、方法の適切性を点検・評価している。そのような点検・評価結果を踏まえて、次年度の開設科目、教育内容・方法等について各専攻会議で詳細な検討を行い、研究科会議で審議を行っている。	
<b>【博士】</b> 月2回のペースで政治学専攻会議、ならびに政治学研究科会議を開催し、教育課程およびその内容、方法の適切性を点検・評価している。そのような点検・評価結果を踏まえて、次年度の開設科目、教育内容・方法等について専攻会議で詳細な検討を行い、研究科会議で審議を行っている。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※取り組みの概要を記入。	
各専攻会議および研究科会議等において、学生による授業改善アンケートの結果を所属教員に回覧して、その周知をはかっている。同アンケート結果をうけて組織的な対応を必要とするような指摘内容については、各専攻および研究科で必要な対応を審議し、授業の内容や進め方等の改善に役立てている。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	

## (2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・修士課程では、全専任教員が参加する2度の論文構想発表会を設け、初回で各々の大学院生の研究構想に対してその方向性に関する多面的な批評を行うとともに、第2回で研究の掘り下げ方を助言・指摘することにより、論文の執筆を計画的・段階的に進めさせていく体制が整っている。博士課程においては各自のリサーチワーク（研究論文作成）が中心となり、指導教員の個別指導等が最も重要な役割をはたす。そのため、指導教員による個別指導にもとづいた科目を設定し、そのほか必要に応じて研究分野に関わる教員の授業科目を履修するよう指導してきた。同課程のコースワークについては、在学者数が少ないという事情があるため、これまで体系化されてこなかった。しかし累次の研究科会議で、リサーチワークとバランスのとれた適切なコースワークの在り方について審議を重ねてきた結果、論文指導科目（修了所要単位：12単位）と選択必修科目	1.2③および1.1③

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

(同：4単位) からなる授業科目が新設され、コースワークおよび授業科目の単位制が導入された。	
--	--

## (3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

## 2 教員・教員組織

## 【2019年5月時点の点検・評価】

## (1) 点検・評価項目における現状

2.1 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	
①研究科（専攻）独自のFD活動は適切に行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p><b>【FD活動を行なうための体制】</b> ※箇条書きで記入。</p> <p>政治学、国際政治学の各専攻会議において、授業で導入している工夫について定期的に意見交換を行っている。</p> <p>教員の資質向上が教育の改善をはかる有効な手段の一つであることを踏まえ、両専攻の専任教員を構成員とする「政治学コロキウム」を定期的に開催している。また、同コロキウムには院生の参加も認め、通常の授業よりもさらに先端的で高水準な知見に触れる機会を提供している。</p> <p>政治学研究科長が自己点検委員会や大学評価室セミナー等に出席し、その内容を政治学研究科会議で報告し、専任教員陣と共有している。</p> <p>両専攻の専任教員には学内紀要『法學志林』への定期的な寄稿が義務づけられている。</p> <p>両専攻の専任教員には、学内のルールに基づいた、国内外への研修・研究の機会も保障されており、それらの機会を利用して広い視野から専門領域に関する知見を得ることができる。</p> <p><b>【2018年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】</b> ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・政治学コロキウム</li> </ul> <p>2018年6月25日、現代法研究所会議室、テーマ：「第二次世界大戦後のフランスと東アジア 1945-1951年」、17名参加</p> <p>2018年10月22日、現代法研究所会議室、テーマ：「国民国家の政治-福祉国家の形成・発展・変容を中心に」、19名参加</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>	
②研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>政治学、国際政治学両専攻の専任教員を構成員とする「政治学コロキウム」を定期的に開催し、教員による先端的な研究成果を披露して、異なる専門分野を有する教員同士が議論する機会を設けている。そのうえで、同コロキウム後に開催される教員懇談会では、さらに専門分野をこえた関連な議論と意見交換が行われている。</p> <p>ボアソナード記念現代法研究所において各種研究プロジェクトを組織することを通じて、専攻や学部、さらには大学をこえた共同研究を実施したり、科学研究費プロジェクトに関わる相互協力を行うなどして研究活動の活性化に努めている。</p> <p>沖縄文化研究所の運営やシンポジウムといった各種プロジェクトに参画することを通じて、専攻や学部、さらには大学をこえた共同研究に関わり、研究活動の活性化に努めている。</p> <p>学内の他の研究科や研究所等と連携した公開講演会の可能性を探求中である。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>	

## (2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各専攻会議において、授業での工夫につき定期的な意見交換を行っている。</li> <li>両専攻の専任教員を構成員とする「政治学コロキウム」を定期的に開催しており、同コロキウムは2019年度も複数回の開催が予定されている。</li> <li>同コロキウムには院生の参加も認め、先端的で高水準な知見に触れる機会を提供している。</li> </ul>	2.1①および2.1②

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>コロキアム後の教員懇談会では、専門分野をこえた関連な議論と意見交換が行われている。</p> <p>研究科長が自己点検委員会等の内容を研究科会議で報告し、専任教員陣と共有している。</p> <p>両専攻の専任教員には『法學志林』への定期的な寄稿が義務づけられている。</p> <p>両専攻の専任教員には、学内のルールに基づいた国内外への研修・研究の機会も保障されており、広い視野から専門領域に関する知見を得ることができる。</p> <p>ボアソナード記念現代法研究所や沖縄文化研究所を通じて、専攻や学部、さらには大学をこえたプロジェクトに参画し、研究活動の活性化に努めている。</p> <p>学内諸機関と連携した公開講演会の可能性を探求中である。</p>	
---	--

## (3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

## III 2018年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
1	中期目標	二専攻体制に関する検証結果を踏まえた対応策の実施	
	年度目標	二専攻体制に関するタスクフォースを設置して検証作業を開始	
	達成指標	二専攻体制についてのタスクフォースの設置・運営	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	引き続き2専攻体制を維持する一方、国際政治学専攻の定員削減決定を実現した
		改善策	入試問題の合理化など、組織効率の改善のために政治学研究所会議で、専攻間の連携・合理化を定期的に検討する
質保証委員会による点検・評価			
所見		タスクフォースの結論を踏まえて、国際政治学専攻が定員削減に踏み切ったことは高く評価できる	
改善のための提言	入試問題の合理化などの細かい合理化策を継続的に検討していくための申し合わせを政治学研究所会議で確認することが望まれる		
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
2	中期目標	博士後期課程コースワークの検討	
	年度目標	小人数でコースワークを実施する可能性の検証	
	達成指標	コースワークについてのプロジェクトチームの設置・運営	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
		理由	博士後期課程コースワークを新たに設置した
		改善策	新制度を着実に実施していく
質保証委員会による点検・評価			
所見		博士後期課程コースワークの導入という課題をクリアしたことは高く評価できる	
改善のための提言	新制度を実施していく中で、調整を要する点などが出てくるのであれば、政治学研究所会議で検討することが望まれる		
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
3	中期目標	学内の政策系の研究科等との連携・調整強化	
	年度目標	学内の他研究科との交流の場の設定	
	達成指標	学内の他研究科との懇談会の実現・開催	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
理由		学習成果に関する他研究科との公式な懇談会は実現できなかったが、教員間で非公式な意	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

			見交換は行った
		改善策	より組織的に教育課程と学習成果について意見交換できる場を模索する
		質保証委員会による点検・評価	
		所見	学習成果に関する他研究科との公式な懇談会を開催できなかったかもしれないが、非公式な形の方が実質的な意見交換を実現しやすい面もあるので評価できる
		改善のための提言	公式な懇談会の開催にこだわる必要はなく、個別の教員が信頼関係のある他研究科教員と懇談し、有益な知見を得られる場合に、専攻会議ないし研究科会議で報告する形を模索することが望まれる
No		評価基準	学生の受け入れ
4		中期目標	学内外の類似する他研究科との差別化
		年度目標	①政治学研究科の独自性についての検討を開始 ②国際政治学専攻の定員減
		達成指標	①政治学研究科の差別化についてのプロジェクトチームの設置・運営 ②国際政治学専攻の定員を25名から10名に削減する案の検討
			教授会執行部による点検・評価
		自己評価	A
		理由	①政治学研究科の差別化についてのプロジェクト・チームの設置・運営には至らなかった ②国際政治学専攻の定員を25名から10名に削減した
		改善策	他大学同分野の研究科の特色などを把握して、独自性を検討する
			質保証委員会による点検・評価
		所見	①政治学研究科の独自性を何に求めるかについての議論がさほど深まらなかったことは課題として残る。 ②国際政治学専攻の定員削減の実現は、科目改廃を伴った実質的な改革であり、高く評価できる
		改善のための提言	そもそも何のために政治学研究科の独自性を出す取り組みを進めるのかといった根本的な議論を、非公式な形で教員間で開始することが望まれる
No		評価基準	教員・教員組織
5		中期目標	年齢構成のバランスを是正
		年度目標	学部と連携しつつ人事における年齢構成の適切化を図る
		達成指標	今後数年間の定年教員充足について計画を策定
			教授会執行部による点検・評価
		自己評価	A
		理由	定年を迎える教員と新規採用スケジュールを把握し確認した
		改善策	教員の退職スケジュールを踏まえて人事採用の準備を進めていく
			質保証委員会による点検・評価
	所見	教員の退職スケジュールを踏まえた人事採用が進められており、高く評価できる	
	改善のための提言	定年教員を充足するための準備を計画的に進めるプロセスが堅持されることが望まれる	
No		評価基準	学生支援
6		中期目標	執行部による学生との面談を図る
		年度目標	学生代表との相談による面談形態の検討
		達成指標	学生との面談の実施
			教授会執行部による点検・評価
		自己評価	A
		理由	国際政治学専攻では、学生の意見を踏まえて科目の改廃を判断した
		改善策	具体的なニーズを継続的に把握し、学習成果に生きそうな内容については実現を模索する
		質保証委員会による点検・評価	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

	所見	国際政治学専攻が、科目の改廃を判断するにあたり、学生の意見を踏まえて判断したことは高く評価できる	
	改善のための提言	教員が学生との研究指導の場などを活用して、カリキュラムに対する意見などを汲み上げる努力を継続することが望まれる	
No	評価基準	社会連携・社会貢献	
7	中期目標	公開講演会等の実施を検討する	
	年度目標	他研究科や研究所等と連携しつつ公開講演会の可能性を探る	
	達成指標	公開講演会等について研究科会議で検討	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	国際政治学専攻の教員は、現代法研究所にて公開型の国際ワークショップを開催した
		改善策	類似の形態の公開講演会等の機会を引き続き模索する
		質保証委員会による点検・評価	
所見		国際政治学専攻の教員が、学内研究所を活用して、大学院生も裨益する内容の国際シンポジウムを開催したことは極めて高く評価できる	
改善のための提言		研究と大学院教育、教学成果の社会還元を三位一体で実現するような企画を、年度序盤の専攻会議などで検討することが望まれる	
<b>【重点目標】</b>			
二専攻体制の検証に基づいた対応策の実施を重点目標とする。 まず両専攻の専任教員数名で構成するタスクフォースを設置し、検証方法等を検討する。			
<b>【年度目標達成状況総括】</b>			
2018年度は、国際政治学専攻の修士課程の定員を25名から10名に削減したほか、政治学専攻の博士後期課程にコースワークを導入するなど、制度面で大きな改革を実現した。これらの改革は、過去1～2年ほどの検討の結果を踏まえて計画的に実現されたものであり、目標を掲げたうえで段階を踏んで教育課程を改善する取り組みの本旨を全うしている。また、国際政治学専攻の教員が社会貢献に資する新たな取り組みを実現したことは、この面での取り組みを活性化する端緒となりうるもので、大きな進展である。政治学研究科の独自性を出すための取り組みを特定する作業が遅れているが、外国人留学生が増加傾向にある現在、引き続き検討を重ねて、具体策を見出せるところにまで到達することが必要である。			

## IV 2019年度中期目標・年度目標

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
1	中期目標	二専攻体制に関する検証結果を踏まえた対応策の実施
	年度目標	二専攻体制維持しつつ、定員削減に踏み切った国際政治学専攻の定員充足率および政治学専攻の定員充足率を向上させる
	達成指標	①入学試験受験者数②入学者数③進学相談会来場者数（参考）
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
2	中期目標	博士後期課程コースワークの検討
	年度目標	①新たに導入された博士後期課程コースワークの着実な履行 ②新版（2018年7月2日改正）「ディプロマポリシー」と「学位請求の審査過程及びアプローチ」の着実な履行
	達成指標	春・秋学期各1回の論文構想発表会の実施と修了者数
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
3	中期目標	学内の政策系の研究科等との連携・調整強化
	年度目標	学内の他研究科との交流の場の設定
	達成指標	学内の他研究科との懇談会等の開催実績
No	評価基準	学生の受け入れ
4	中期目標	学内外の類似する他研究科との差別化
	年度目標	①政治学研究科の独自性について検討を継続する ②国際政治学専攻入試における、中国や台湾のものを含む外部英語試験の導入による合理

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		化
	達成指標	①政治学研究科の差別化に関する審議を実施 ②国際政治学専攻に相応しい多様な学生の受け入れ
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	年齢構成のバランスを是正
	年度目標	学部と連携しつつ、引き続き人事における年齢構成の適切化をはかる
	達成指標	今後数年間における定年教員充足に関する計画の策定
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	執行部による学生との面談を図る
	年度目標	院生代表らとの面談の検討
	達成指標	院生との面談の実施
No	評価基準	社会連携・社会貢献
7	中期目標	公開講演会等の実施を検討する
	年度目標	学内の他の研究科や研究所等と連携しつつ、公開講演会の可能性を探る
	達成指標	公開講演会等に関する研究科会議での検討および開催実績
<b>【重点目標】</b> 博士後期課程コースワークの着実な履行、および新版（2018年7月2日改正）「ディプロマポリシー」と「学位請求の審査過程及びアプローチ」の着実な履行を重点目標とする。そのための施策としては、在籍者および新規入学者にコースや制度の内容と意義を周知させ、履修者数および履修単位数ならびに修了者数の確保をはかることとする。		

## V 大学評価報告書

<b>2018年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価</b>	
<p>政治学研究科は2018年度の大学評価委員会による評価結果を受けて、国際政治学専攻の定員を25名から10名に削減した。定員を削減することは研究科にとって苦渋の選択であったに違いないと思うが、その英断を下したことを高く評価したい。また博士後期課程に関しては、論文指導科目と選択必修科目からなる授業科目を新設し、コースワークおよび授業科目の単位制を導入した。その結果、同課程のカリキュラムがさらに充実したと判断できる。</p>	
<b>1 教育課程・学習成果の評価</b>	
<b>①教育課程・教育内容に関すること</b>	
<p>政治学研究科政治学専攻および国際政治学専攻では、コースワークとして幅広い科目を提供しつつ、指導教員が大学院生の研究テーマを踏まえて、リサーチワークに役立つと思われる履修科目についてきめ細かい助言を行っている。英語の実践的能力強化を目指している国際政治学専攻では、英語コースワーク科目も配置している。特に国際政治学専攻では、履修科目が5つの科目群（クラスター）に整理されており、専門分野の高度化に対応した科目配置が可視化されている。リサーチワークも様々な発表会や集団指導を通じて適切に行われている。政治学専攻では博士後期課程において授業科目を単位化するにあたり、「国際政治特別研究1・2」を新設し、修了要件とされていることが2020年度の入学案内に明記されている。両専攻とも留学生の受け入れを積極的に進めている。さらに国際政治学専攻では、「グローバル政治経済特別セミナー」という、外国人研究者による最新の研究を踏まえた集中講義も開設されており、大学院生がグローバルな水準の研究に触れる機会が提供されている。</p>	
<b>②教育方法に関すること</b>	
<p>政治学研究科における大学院生の履修指導は、留学生と日本人が混在する場合も含め適切に行われている。2つの専攻ともに、学位請求の審査日程及びプロセスに関する文書を新入生オリエンテーション時に大学院生に配布し、それについて各専攻主任が詳細に説明している。また、同文書はオリエンテーション欠席者などのため事務窓口にも備え付けられ、あらかじめすべての大学院生が知ることのできる状態にされている。また修士課程、博士後期課程ともに学位論文を提出する前に2回の論文構想発表会が設定されていて、大学院生に対する履修指導が指導教員を中心に複数の教員によって効果的に行われていることは評価できる。</p>	
<b>③学習成果・教育改善に関すること</b>	
<p>政治学研究科の成績評価と単位認定は適切に行われており、異議が唱えられた場合は専攻会議あるいは研究科会議で審議される仕組みによって客観性が担保されている。両専攻ともに「政治学研究科学位基準」により学位論文審査基準が大学院生に明確に示されていることは評価できる。学位授与状況は大学院課と連携して全教員が把握できるようになってい</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

る。学位の水準を保つため厳格な審査体制とスケジュールが確保されている。修士論文の審査にあたっては全専任教員が加わることにより、また博士論文では専門性の高い小委員会の審査を経てから全専任教員の審査投票を実施することで学位論文の水準を担保している。学位授与に係る責任体制及び手続は学位規則に従って適切に行われている。就職・進学状況については大学院事務課と連携してデータを取得し、教員陣が把握できるようになっている。分野の特性に応じた学習成果の評価指標設定は「政治学研究科学位基準」によって示されている。さらに学習成果は個別授業内の研究報告、指導教授の定期的な確認そして論文構想発表会などにより把握され、達成度は適切に評価されている。学習成果は定期的に検証されており、教育課程及びその内容、方法の改善・向上のために、各専攻会議、研究科会議等で点検・評価のうえ必要な取り組みがなされている。授業改善アンケートは各会議等で回覧され、必要に応じて審議を行い授業の改善に役立てている。

## 2 教員・教員組織の評価

政治学研究科ではそれぞれの専攻会議において、授業で導入している工夫について定期的に意見交換が行われている。特に両専攻の専任教員を構成員とし、大学院生の参加も認められている「政治学コロキウム」が定期的に開催されている（2018年度は2回）。そこでは教員による先端的で高水準の研究成果を披露して、異なる専門分野を有する教員同士が議論する機会が設けられている。また、両専攻の専任教員には学内紀要『法學志林』への定期的な寄稿が義務づけられている。関連する学内研究所と研究協力体制が構築されており研究活動の活性化や資質向上に努力している。

### 2018年度目標の達成状況に関する所見

政治学研究科政治学専攻博士後期課程にコースワークを導入したこと、および国際政治学専攻が定員削減に踏み切ったこと、これら2点を達成したことは高く評価できる。その他の年度目標もほぼ達成されたが、さらなる改善に向けて質保証委員会からの提言を実現していく必要があると思われる。特に昨年度も指摘されていた政治学研究科の独自性の検討は、今後も引き続き研究科・専攻内で議論を進めることを期待したい。

### 2019年度中期・年度目標に関する所見

2019年度の中期目標と年度目標は適切に設定されており評価できる。中期目標については昨年度のそれとの継続性が維持されている。年度目標については、2018年度に新たに達成された、政治学専攻博士後期課程のコースワークの着実な履行と国際政治学専攻の定員削減の効果を特に期待したい。他方政治学研究科の独自性についての検討は昨年度も年度目標に設定されていたこともあり、その具体的成果が早く達成されることを期待したい。教員の年齢構成の適切化については、定年教員を充足するための準備を計画的に進めるプロセスを堅持していただきたい。

### 法令要件及びその他基礎的要件等の遵守状況

特になし

### 総評

政治学研究科では、年間計画書「学位請求の審査日程及びプロセスについて」により学位取得までのロードマップを示し、「学位基準」で審査基準を明確化して周知徹底しており、定期的に開催される論文構想発表会等の指導によって大学院生が研究活動を適切に行うことができるように配慮されている。2019年度から政治学専攻博士後期課程においてコースワークが導入され体系的に専門分野の知識を習得できるようになったことは高く評価できる。また多くの専攻が定員未充足問題に悩む中で、2018年度に国際政治学専攻が入学定員削減に舵を切ったことは、高く評価されるべきである。それによって、定員充足率は当然上昇するであろうが、むしろ重要な点は、定員削減によって入学者の質が向上し、学位の水準が高まることにあると思われる。その意味で、具体的な学習成果を把握・評価するための取り組みや学習成果の定期的検証が、以前にも増して重要性を帯びてくることになろう。そのために過年度から続いている他大学との差別化を図るための政治学研究科の独自性を追求する試みに関しては、今年度も引き続き取り組まれることを期待したい。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。